

科 目 名

総合薬学演習 Exercises of Comprehensive Pharmaceutical Sciences
--

4年 後期 2単位 必修

全 教 員

概要・目標

6年制課程では、5年次に1ヶ月の学内事前実習の後、病院薬局実習（2.5ヶ月）、保険薬局実習（2.5ヶ月）が実施される。実務実習では薬剤師免許を取得していない学生が、調剤業務や患者さんに対して服薬指導を行うことになるため、それに必要な基本知識・技能・態度が身についているかを客観的に示す必要がある。そのため、4年次後期にコンピュータによる基礎力到達度テスト（CBT）および客観的臨床能力試験（OSCE）が実施され、合格者に対して学外の長期実務実習が許可される。したがって、実務実習を行うためには、共用試験に合格することが最低限必要である。「総合薬学演習」は、共用試験に合格するに足る基本知識を確実なものするために、4年間の薬学基礎教育の集大成として設けられた科目である。

薬学特有の広範囲の講義や実習で学んだことは、「点」としての知識に止まる傾向が強いので、これらの「点」が学際的に関連しながら「線」からさらに「面」へと広がっていく薬学的思考過程を各分野に互って体系的に演習形式で学びながら、薬が関与するあらゆる問題について自主的に学習し、統合した知識と理解力の育成を目指す。

授業計画

「総合薬学演習」は、「基礎薬学」、「衛生薬学」、「医療薬学」、「薬事関係法規および薬事関連制度」の各分野の教員が連携をとりながら、薬学教育ガイドラインに沿って演習を行う。

また、本演習においては、学習到達度別授業を採用し、実務実習に必要な知識を、講義、演習、試験を一体化して集中的に学習する。

評価方法

授業の出席率、後半に実施する試験結果等により総合的に評価する。

教 材

資料は、薬学総合演習の実施前に掲示する。

薬剤師国家試験支援 WEB サイトでも随時情報提供を行う。